



いぶき（GOSAT）観測体制強化及びいぶき後継機開発体制整備

平成28年度要求額
234百万円（24百万円）

背景・目的

- 世界初の温室効果ガス専用の観測衛星である「いぶき」は平成21年の打ち上げ以降、順調に観測を続けており、全球を多点かつ精度良く観測し、陸上観測の空白域を大幅に減らし、通年での観測による全球温室効果ガス吸収・排出量の把握により世界に大きく貢献している。
- 2015年1月に制定された「宇宙基本計画」では「いぶき」後継機に関する記述がされており、2013年3月に米国と締結した覚書にも「いぶき」後継機のミッションに関する協力について記載されている。
- 気候変動の科学の理解、地球環境の監視、REDD+等の気候変動関連施策に対し貢献する我が国の国際社会における役割を継続的に果たすため、平成29年度打ち上げを目標として「いぶき」後継機を開発する。

事業目的・概要等

事業概要

- | | |
|---------------------------------------|----------|
| (1) REDD+のMRVシステムの開発 | (24百万円) |
| (2) 「いぶき」後継機用観測センサの精度実証業務 | (40百万円) |
| (3) 衛星データ処理能力向上のためのスーパーコンピュータのストレージ増強 | (170百万円) |

事業スキーム

請負先：民間団体等
実施期間：開発・打上=6年間〔平成24年度～平成29年度〕

期待される効果

- REDD+活動の温室効果ガス削減・吸収効果を定量的・客観的に把握し、世界の森林の減少・劣化に伴う温室効果ガスの排出の削減に貢献する。
- いぶき後継機の打ち上げに向けた開発を進めることにより、後継機での全球的な高精度・長期連続観測の実施、都市単位での人為起源の温室効果ガス排出源の特定、及び気候変動に関する長期的な監視情報の提供を達成する。
- 「いぶき」後継機の観測データは現行機より増加することが見込まれることから、データ処理能力の高速化を通して高度かつ迅速なデータ利用の促進に資する。

